

第2回菊池市総合計画策定審議会 議事録

I 概要

日時：2021年3月26日（月）13：30～15：40

場所：菊池市役所 本庁3階305大会議室

出席：委員 上野委員、岩根（孝）委員、岩根（浩）委員、芹川委員、田中委員、加来委員、
松永委員、最上委員、緒方委員、佐藤委員、飯塚委員、山口委員、福田委員、
中里委員

※欠席 古津委員、北村委員、松野委員、合志委員、工藤委員、坂田委員、
中村委員

菊池市政策企画部 後藤部長、上野係長、井島参事、井芹参事

地方経済総合研究所 宮中、宮野、松永、古田、大久保、内藤（文責）

※以下敬称略

II 会次第

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

（1）第3次菊池市総合計画骨子（案）について

（2）ありたい姿の検討（グループワーク）

（3）その他

4 閉会

Ⅲ 議事詳細

発言者	内 容
	1 開会
会長	<p>2 会長挨拶</p> <p>現状、熊本では新型コロナウイルスの感染者数は沈静化している。移動制限も全国で解除になってはいるが予断は許さない状況。コロナ禍の終息は1年では不可能と考えるため、事務局には状況を見ながら柔軟に対応してもらいたい。</p> <p>本日はワークショップ形式で少人数での対話をしてもらうので積極的に意見を発言してもらいたい。</p>
会長	<p>3 議事（1）第3次菊池市総合計画骨子（案）について</p> <p>議事（1）第3次菊池市総合計画骨子（案）について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>事前に配布した資料「第3次総合計画骨子（案）」について説明。</p> <p>現行計画の構成と大きく変更になる点は、①人口ビジョンの追記、②総合計画と総合戦略の関係を追記、③政策分野を基本構想から基本計画へ変更、④行政評価の一本化の4点。</p> <p>人口ビジョンとは人口分析と将来推計により、市が目指すべき方向性と目標を示し、総合戦略と一体的に策定されたものである。人口動態は市の施策の効果と密接に関係し、総合計画に盛り込むことで目標を明示する。また、総合戦略は総合計画の施策のうち、重点的な施策という位置づけであることから、総合計画と総合戦略の関係を明記する。</p> <p>政策分野を基本構想から基本計画に変更する理由としては、社会情勢の変化に対応するため4年後に見直しができるよう変更するもの。</p> <p>行政評価の一本化は、次期計画では総合戦略の施策を総合計画の重点項目に組み込み一本化することで評価を簡素化する。</p>
会長	<p>総合計画は各自治体が策定している。どの自治体も方向性は変わらないが、どの政策を強調するかでそのまちの特徴が見えてくる。菊池らしさを出していくことが必要となるため、専門的知見のある委員の知恵を借りたい。</p> <p>人口ビジョンは、行政としては人口減少を抑制、増加を目指すために策定する必要があるが、全国どの自治体も減少を食い止めることは難しい。出生率を上げ、死亡率を下げ、菊池市で生涯暮らしていく人を増やしていくような施策が必要となる。他方で、人口増加のためには外国からの移住者を増やすという視点もある。</p>

会長	3 議事（２）ありたい姿の検討（グループワーク） 議事（２）ありたい姿の検討（グループワーク）について、事務局より説明をお願いします。
事務局	資料 2 に基づいて説明。今回対話いただく内容は総合計画のありたい姿に反映していくことを想定。本日決定するのではなく、今回の議論を踏まえた上で事務局が素案を示す。

②グループワーク

【A グループ（委員：5名）】

a.子育てと健康福祉

委員	働きながら子育てしやすい環境が整っていることが重要。総合計画の人口ビジョンに連動して考え、子育て世代の家族が増えることが市の人口増加や、発展に繋がると思う。
事務局	働く環境、働き方改革といった環境づくりが重要。
委員	子育ても大事だが、親育ても大事。家族支援の茶話会の中で、親の考えの甘さが見え、我が子しか見ていない感じがする。隣近所の付き合いが希薄化し、親世代から学び直すことで、地域のつながりや信頼関係が生まれる。学校が安心して預けられる場所ではなくなってきており、不登校の子供も多い。例えば、フリースクールのように子どもたちが学校を選べれば、親も安心して子どもを預けられる学校を目指すことで、他所からも人が集まると思う。
委員	地域の見守りなどで交流の場を増やしていきたい。2世代、3世代家庭が少なくなり、高齢者家族と若者家族がそれぞれ分離している気がする。私たちも子供たちと触れ合いたいが、そういう場がないため、交流ができるまちになればいい。
委員	菊池市には色々な医療機関があるが、若者世代は医療を簡単に受けられる一方、高齢者には交通インフラが不十分であり医療を受けにくい状況。オンライン診療など在宅診療等が充実したまちでありたい。
委員	障がい者も地域の中で安心して生活できるまちづくり。障がい者グループホーム等の施設が地域に入っていくには、その地域に事前の説明が必要というのはおかしい。多様性を受け入れるまちづくりが望ましい。
委員	生涯を通して暮らして良かったと思える安心安全なまち。高齢者、子育て世代問わず、菊池市にいたら安心、医療も福祉も環境も充実しているまち。特色ある取り組みが魅力につながる。住民が自慢したいまち。あらゆる施策が行き届いたまち。菊池っていいなと思われ、移住定住を

	考えてもらえるようなまちであり、住みやすいまちを目指したい。
委員	菊池は水が綺麗だが、菊池市では菊池産の水は売ってない。また菊池は郷土料理も沢山あるが、作れる人が少なくなった。伝統を伝えていく場が必要であり、地域住民が地域の良さを知らない。
委員	一度外に出ても帰ってくる、帰りたと思うまちにしたい。他所では水道水を直接飲用として使用できない所もある。水や食は人の心を掴むと思う。
委員	<p>私は中2で菊池を離れ、昨年沖縄から帰ってきた。菊池にいた頃は地域人たちに見守られて育った記憶があり、そんな環境で子育てをしたいと願い菊池に戻ってきた。当時は、帰りたと思っていても、菊池に職がなかったためすぐ戻れなかったが、自身で起業してようやく戻ることができた。働く場がないと安心して子育てができない現状を知った。</p> <p>外から見て菊池市の取組みが、何に力を入れているのかネットで情報を得ることができなかった。市民が知らない、市民が発信するきっかけになっていない。例えば、先程のフリースクール導入で教育面を強化する等、他市との差別化によって人が集まるかもしれない。特色あるコンピュータ学習の導入など、他地域との違いを発信していく必要がある。</p>

b.市民サービス

委員	地元ケーブルテレビの導入。天草市では、テレビチャンネルを皆が情報収集の窓口として利用している。民放より視聴率が高いときもある。高齢者はインターネットでの情報収集が困難なため、市職員が身近な話題を常時発信している。市民が地域を知るという面では菊池市にもあるといいと思うし、デジタル社会であるが、SNSを使えない人にとっては最も効果が高い手段である。
委員	玉名市や小国町にもある。高齢者層が子どもたちの様子をテレビで見るのを楽しみにしている。以前、市に要望したことがあるが、費用面で困難と回答されたが、地域ケーブルテレビは良いと思う。
委員	各地区の公園で思春期世代の親を招いて、情報交換していく「青空茶話会」を開催し、人と人をつなげ、相談しやすいまちづくりを目指したい。以前は、婦人会があったが先輩親との交流がないため悩む親が多い。お金を払ってでも相談したい人が多い状況。市民参画のキッカケになり、親の孤立をなくしたい。
委員	主人に先立たれた時、職員の対応が良く本当に助けられ、とても嬉

	しく思ったことを覚えている。市民と職員の良い関係を保ち、仕事を通して人と人の輪を広げていきたい。
委員	菊池ファンド（菊池ファン）による財源確保。一般財源の使途が分かりづらいので、特定の分野に使途を絞り、ふるさと納税やクラウドファンディング等で菊池ファンから資金を集め、事業を展開する。事業後は、成果を共有することで安心と貢献できたことに喜びを感じるようになる。
委員	外部から必要な情報へアクセスが簡単にできることが必要である。菊池の場合、住民による情報発信が足りず、菊池に帰ってくる時に空き家バンクに情報登録なかったため、住居選定に苦慮した。ただ、空き家バンクに情報は無いが、実際に街を歩くと空き家は散見され、商店も同じ状況。市外から探せないのは拒否されているのと同じで、移住にもつながらない。情報が登録されていなければ、ニーズに繋がらないため、情報発信は考える余地があると思う。リサイクルできる資源は多いのに、眠ったままになって活用ができていない。情報を発信する、情報を得る、繋ぐといった、仲介する人がいない。
委員	コンパクトシティの推進は避けて通れない。医療も教育も効果が上がるし、利便性も向上する。基本計画の方向性としては重要なこと。人口ビジョンの将来人口3万3千人程度ではコンパクトシティを実現していくしかない。この計画期間で実現は厳しいかもしれないが考える期間になるべき。
委員	コンパクトシティは賛成。利便性は飛躍的に向上し、公共交通の不便さを自動運転の将来的な普及により不便さを補うことができ、可能性が広がるし、雇用を創出することも可能。高齢者は中心地へ移動することで便利さの恩恵を受ける。
委員	街に人が集まる分、山間部の人口が減少し山林の管理等は厳しくなるかもしれないが、利便性を望まない、自分たちで生活できる、避暑地を求める方は山間部で生活し、山林の管理は新しい仕事（雇用）の創出になる。
委員	コンパクトシティに住みたい人は街に住む、山間地が好きな人は山に住む、それぞれの考え方があると思う。
委員	官民一体で進めていくことが必要である。
委員	官民が同じ方向性を持ち、コンパクトシティを目指した新しいまちづくりをやるのが、持続可能なまちづくりになる。トヨタがやろうとしている夢があるまちづくりを菊池でやるようなイメージ。
委員	菊池で新しいことをやっている、面白いことをやっている、という

	情報を若者がキャッチすると人が集まってくる。そこで働いてみたい、住んでみたいという考えに繋がると思う。そこには情報を発信するケーブルテレビが有効な情報発信ツールになると思う。
委員	高校生アンケートで「菊池市はどこを目指しているか分からない」という意見があり、鋭い意見でその通りだと思った。
委員	高校は3つあるが定員割れで生徒が少ないので、真剣に考えないといけない。
委員	北九州の研究都市の例では3大学設立以降、多数の移住者により、地域に小学校が作られ、理想的なコンパクトシティとなった。若い世代も多く、治安も良い。また、転入率が高く、都市高速も延伸され、商業施設も建設されている。
委員	大型商業施設ができれば雇用が創出され、人が戻れるようになる。
委員	大型施設ができたなら、逆に小規模店も地域における価値が見直されると思う。

【B グループ（委員：4名）】

a.産業と経済

委員	<p>「安心して仕事（農業）が継承できるまち」。25年間畜産の指導を行ってきて課題と思うのは、旭志以外の畜産農家には後継者がいないこと。まちなかには閉店した店も多い。農業に限らず、家族間でなく事業者から事業者への継承を進められる体制を行政主導で作りに上げて欲しい。JAでは取り組もうとしているが、マッチングが難しいという課題もある。</p> <p>「高齢者が稼げるまち」。高齢者が自力で月10万円程度稼ぐことができる雇用創出などの仕組みが必要。雇用をさらに次の世代の高齢者に繋げていければ安心できる。地元の旭志地区は、出生率は高いが若い世代の流出で高齢化率も高い。稼げることで高齢者の生活の安定になる。</p>
委員	<p>「雇用の確保」、「若者が働きやすい職場があるまち」。近隣でも合志市や菊陽町では人口が増加している。菊池市が人口減少している原因は雇用が少ないこと。企業を誘致し税収を確保すれば、観光振興等の財源も確保できる。若者が働きたいまちになってほしい。</p> <p>「竜門ダムを活かした観光の創出」。竜門ダムはポート競技場として使用されるため、大会期間中には人が集まるが、期間外の誘客が課題。現在試行されているような、単なるキャンプ場としての開放ではなく、ダムを活かした大胆なプランが欲しい。</p>

	<p>「外国との連携都市の模索」。国内外の姉妹都市を増やし、連携・提携すれば労働力等の人手不足が解消できる。菊池の魅力を発信することで、移住にも繋がると考える。</p>
委員	<p>「農業と観光が融合した魅力的なまち」。農業体験を観光資源化することで、農業の人手不足を解消する。農泊（5日間農作業、2日間観光）など。</p> <p>「観光客が長期滞在したくなるまち」。統計上、日帰り観光客の消費額は5,000円、宿泊客は25,000円と大きく差がある。観光消費額を増やすためには長期滞在客の増加が必須で、アクティビティの開発などが必要である。</p> <p>「農業へ新規参入しやすいまち」。官民の受け入れ態勢が整っているまち。</p> <p>「誘致企業と地場企業がコラボし新ビジネスが生まれるまち」。単に誘致するだけでなく、コラボしていくことで産業が活性化する。行政が出会う機会を創出してマッチングしてほしい。</p> <p>「若者が集い住みたくなるまち」。魅力的な雇用があり、若者が集まり、移住に繋がるようなまちであってほしい。</p>
委員	<p>「菊池一族の歴史を更に前面に出した観光戦略」。地元出身だが、改めて学び直してようやく菊池一族の素晴らしさを知った。450年間24代にわたって誠実な統治で生き延びた稀有な一族の魅力が、地元でよく知られていない。地元で菊池一族について学び、観光資源として広くアピールしていくべき。</p> <p>「進出企業との連携強化」。菊池市では夜間人口は減っているが昼間人口が増加しており企業誘致の賜物だと思う。ただ、企業と行政のつながりが薄い印象があるため、連携して相乗効果を生み出したい。</p> <p>「デジタル化、キャッシュレス化を推進した商業振興」。デジタル化やキャッシュレス化のための技術を普及させていく施策が必要である。</p>
事務局	<p>菊池一族の歴史は、菊池というまちの固有性を出すのに必要な文化資源である。DX推進は多くの産業にまたがる課題である。特に農業への外国人材の呼び込みにICTは利用できる。ICTを活用するためには、畜産農家の経験や知識を見える化すること等が考えられる。</p>
委員	<p>農業の後継者不足の話があったが、銀行も携わっていきたいと考えている。現在、若く精力的な農家がまとまっている組織はあるのか。</p>
委員	<p>JAでは相互扶助の精神から、青年部（就農から40歳まで）や青壮年部などで情報交換が盛んに行われている。</p>

委員	誰かに農業を譲りたいという時に、精力的な若者が頼りになるのではないかと思う。
委員	確かにそうだが、農業を移譲する際の税金の関係で、個人農家を法人経営へ変えてから移譲しなければならないなどハードルが高く、なかなか農業の継承については活性化していない。
委員	新規就農はしやすい状況なのか。
委員	特に、畜産では初期投資のリスクが高い。勉強しながら農業を始めてもらえるようにしている。
委員	米、メロン、ゴボウなど、初期投資の課題をクリアしやすい作物への就農を促進するほうがよいのか。
委員	米は全国で30万t以上減反となったので、今後振興していくのは厳しい。
委員	道路が整備された阿蘇との連携など、農業を観光に活かすことが大切になる。
委員	他の市町村との連携や相乗効果も外せない。

b.くらしの基盤

委員	<p>「女性が安心して1人歩きできるまち」。市街地は街灯があり防犯できていると考えるが、ハード面の整備だけではなく、声をかけ合えるようなまちになってほしい。</p> <p>「子供を地域で見守る環境のまち（人の子供でも注意する）」。よその子どもが悪さをしていても見て見ぬふりをするような風潮がある。地域の大人が遠慮なく指導できる環境のまちでありたい。</p> <p>「中山間地等への交通アクセスの整備」。中山間地では風水害時に陸の孤島となりかねない集落が多くあるため、代替道路の検討や幅員拡張などの整備をお願いしたい。</p> <p>「地域防災訓練の定期的実施」。市の自主防災組織の組織率は約90%となっているが、自主防災組織における防災訓練が形骸化しているように感じる。防災訓練と同時に応急処置やAEDの講習を行うとよい。ピラミッド型で市の防災体制ができあがり、市民全員がAED使用や簡単な応急手当ができるようになれば救命率が格段に向上すると思う。</p>
事務局	治安の良さは菊池市民アンケート結果で評価されていたので、次の8年も継続していくべきことである。
委員	<p>「災害時に共助しあうまち」、「回復力の高いまち」。避難所生活が長期化した際に協力し合えるまちであれば、被害からの回復も早い。</p> <p>「AIを活用した交通整備」。渋滞緩和等で暮らしやすいまち。</p>

委員	<p>「リモートワーク滞在設備の整備」。移住の環境整備は一朝一夕には達成できないが、リモートワークが更に進み、企業にとって魅力あるまちであれば、滞在人口が増え、経済も活性化する。</p> <p>「近隣市町と連携した交通手段の整備」。近隣の市町村と連携し、運転しない高齢者の移動手段の整備が必要である。</p>
事務局	<p>交通整備について、市民アンケートでも緊急性の高い課題として挙げられている。</p>
委員	<p>「高齢者・子どもの見守り支援」。「見守り支援隊」等と名付けた。地域の見守りを有償で行う企業もあるが、地元の事業者が（多少の補助はあってもいいが）無償で地域を見守っていくのが理想である。</p> <p>「清流と緑あふれるまち」。菊池市は阿蘇の外輪山にあり、生活用水に地下水を使用していることを誇っている一方で、下水道の普及率が低い。上流から完備していくべき。</p> <p>「移住したいと思う（定住）まち」。菊池市から外部への発信は多いが、都市部から菊池市を顧みる視点でアピール方法を考えた方がよい。外から見た時、菊池市ピンポイントでの魅力は見えづらい。また、急に移住して地元のコミュニティに入っても、煩わしい近所付き合いにギャップを感じてしまうと定住に繋がりにくい。移住者のみのコミュニティを作り、田舎暮らしに慣れてもらうほうがよい。</p>
事務局	<p>人口減少の中で上下水道等インフラ維持の市民負担のバランスを考えなければならない。総合計画策定の時にはどうしても内部の市民視点が強くなってしまいが、外から見て住みやすいまちを作っていくという視点も大切だと気づきがあった。</p>
委員	<p>「くらしの基盤」という話題だとお金がかかることが多くなってしまふ。</p>
事務局	<p>例えば先ほどの「AIを活用した交通整備」であれば、公用車に取り付けた機器で道路の老朽化の監視も兼ねる等、複合的な視点も重要。</p>
委員	<p>人口が減少していくのにインフラ維持にお金をかけていかなければならないのは悪循環である。また、地震後に移住者が激増した御船町など近隣からの移住定住に成功した例がある。菊池市では、ココファームが見晴らしのいい魅力的な場所に立地した。山林も多く見晴らしがいい場所は余っている。開発費はかかるが分譲地としてもよい。</p>
事務局	<p>ワーケーションの誘致では自然の豊かさが評価されるが、競合する地域は多い。</p>

委員	(株)美少年が水源小学校跡地を酒蔵として再利用している。観光と合わせて菊池ブランドの吟醸酒が生み出せないか。菊池市にはグルメも多いが、単品だけではなかなか売り出せないなので、組み合わせてブランディングし観光資源にしたい。
委員	菊池川流域の米作りが日本遺産に認定され、酒蔵を回るツアーは県外からも観光客が集まった。

【C グループ（委員：5名）】

a.教育と地域づくり

委員	<p>住みたいまちにするため、質の高い教育環境を実現してほしい。教育現場での経験から、義務教育においては知徳体が重要で、その中でも、保護者が重視するのは学力の部分である。不易と流行というキーワードを挙げているが、教育現場というのは流行に振り回され、学力が伴わないことが多い。また、不易の部分では、子ども達に基礎学力の定着と生活習慣を身に付けてもらいたいと思う。特に読書は大事で、教育体制を充実させ、学力をつけてもらいたい。そうすることで、「菊池に住めば子供にしっかりした教育を受けさせられる」と評判になり、住みたい人も増えると思う。</p> <p>もう一つは、トップアスリートを養成し、あるスポーツにおいて聖地となるような支援が必要である。部活とは分けて専門的に指導を受けられる環境のあるまちになれば住みたいまちになると思う。</p>
委員	<p>話にもあったように質の高い教育環境が大事。質という漢字を使った単語に「質素」という言葉があるが、これは我慢しなければということではなく、本物であるということだと思う。現在、問題となっているのが、食べ物に含まれている添加物であり、9割以上入っているというデータもある。菊池市はオーガニック食が盛んな地域なので、安全な給食を実現したい。</p> <p>もう一つは、小中学校における Wi-Fi 環境である。本市でもギガスクール構想が進んでいるが、電磁波の問題を憂慮している。例えば、学校のルーターはオンとオフの切り替えができないため、子ども達に影響がないのか心配している。この状態だと電磁波を浴び続けることで、子ども達に悪影響を及ぼす恐れがあるため、健康に配慮した環境づくりは必要だと思う。</p>
委員	<p>私は現在、小学生の女兒の里親を行っている。里親制度の利用で家族関係も良くなると感じており、里親向けの研修を是非、菊池市主催で開催してもらいたい。今は不登校児が増えているので、家族関係が</p>

	<p>良くなれば、学力向上につながり、里親のリクルートにつながれば、まち全体、社会全体が元気になると思う。</p> <p>また、子ども食堂で菊池の美味しいものを子供たちに提供したいと思う。今はボランティアによって食堂が運営され、地域の農家から売れない野菜を直接提供してもらっているため、余った野菜等の情報を集めたフードバンクを市で運営できないだろうか。</p> <p>さらに、高齢者の中には子どものために何かをしたいという人は沢山おられるので、市が主体となって、人材、食材が集まる仕組みを作ることで、子育て世代だけでなく、高齢者世代でも子ども食堂を利用してもらおうことができると思う。</p>
委員	<p>私は毎月一度、朝7時から子ども見守り隊をしているが、そこで感じる事は、挨拶をしない子どもが多いこと。また、スポーツについては、旭志には陸上部が無く、スポーツに対して子どもが熱心になれるような環境を増やして欲しい。</p>
委員	<p>IT教育にしっかりと取組み、ITや英語で特色のある学校を作る必要がある。以前から実施しているが成果があまり出ていないように感じる。</p>
事務局	<p>ここまでの議論は、市民参加型の教育について皆様が感じていること。ここからは、8年後どうなっていたら良いか、教育と地域という視点で考えて欲しい。2029年から今を見た時どうなっているのがよいかについて議論して欲しい。</p>
委員	<p>調味料を含めオーガニック給食を推進したいと思う。</p>
委員	<p>農産物の地産地消を促進し、6次産業化をするのが良い。時間はかかると思うが、8年あれば可能と考える。</p>
事務局	<p>6次産業化を教育と繋げるにはどうしたらよいか。</p>
委員	<p>「見せる」ということが大事。例えば、IT教育をするなら、IT企業をそれに合わせて誘致し、身近に働く場所ができることで、IT教育を受けた子ども達が、卒業後そこで働く流れが生まれると思う。</p>
委員	<p>遺伝子組み換えの農作物が出てきていることで、どのような問題が起こるか心配している。それに加えて在来種への影響も懸念される。</p>
委員	<p>農業の担い手については、最新の技術を使うことで生産者の減少を阻止することができるのではないかと思う。</p>
委員	<p>農業は確かに大変だが、野菜を作りたいという人はいるので、もう少し農業を始め易くする仕組みが必要である。</p>
委員	<p>農業で生活するとなるとそれは難しい。土地を集約したうえでの機械化、近代化が必要であると感じる。</p>

委員	<p>菊池市は外国の方も増え、特にベトナム人が多い。現在彼らとお茶会を開催しており、交流に参加してもらっている。外国の方への菊池文化の紹介をして、外国人でも住みやすい街にしたい。また、食育を通して地産地消の取り組みを促進し、里親支援にも繋げたい。不易と流行の考えで、トップアスリート育成・ITスキルの向上も必要と感じている。</p>
----	--

b.自然環境

委員	<p>フードバンクを作り、おいしい食べ物で食育推進する。市が情報を集めて、子ども食堂に提供し、子ども達に地元の食材を食べる機会を与えたい。以前行われていた竹あかり（祭り）が素晴らしいと思う。何度か開催されたようだが、人手が足りず継続していないと聞いている。竹灯籠などの竹を使った商品を是非、商品化してほしい。例えば、芸術家と組んでPRするなど、市が本気で取り組んでほしい。</p> <p>また、竹炭づくりを授業に組み込むことで教育に繋がり、自然環境の改善にも繋がると思う。</p>
委員	<p>竹あかりの人手不足は、学校に手伝いを義務化したことがある。それでも人手が足りず終わってしまったようである。循環型ということで、20年ほど前に学校でやったのが「どんぐりプロジェクト」。どんぐりを植えると木が生えて、落ち葉で堆肥や腐葉土ができる。その土で野菜を作り、クヌギの木でシイタケ栽培する。また、炭窯作って、炭を作り、売ってお金に換え、川に炭を沈めて浄化した。野菜を育てて、給食だけでなく、売りにも行ったことがある。</p> <p>もう一つは、女性や外国人が働きやすい街。現在、1つしかない病後児保育の増設を図り、病後保育が充実していることをPRしたい。</p> <p>最後に外国人とは、今後協力することが沢山あると思うので、地元の交流会や祭りには是非招待していきたい。</p>
委員	<p>遺伝子組み換え食品の広がり心配なので、消費者が食品を選べるのが大事である。遺伝子組み換え食品に対する自主表示規制のある自治体もあるので、自主表示システムを独自で実施してもらいたい。全国的にも運動が広がっている、食品の安全性が保証されるためのシステム作りが重要である。</p> <p>関連して、遺伝子組み換えの肥料は、家畜に与えられていることから、家畜の糞にそれらが含まれている可能性がある。これは、微生物の働きを止めてしまい、作物の生育が悪くなるというデータもある。また、それより土壌や水の汚染が発生するため、環境に配慮した質の</p>

	<p>高い肥料を利用して欲しい。</p> <p>太陽光パネルの設置について市議会等でも問題になったが、企業に対して土地の利用制限を設けてほしいと思う。</p>
委員	<p>市外から多くの人が水を汲みに来ているのを見ると、水が豊かであるということは大切だと思う。川を大事にし、川の景観をよく活かしたまちづくりが必要である。また、太陽光パネルの設置による木の伐採など、土砂崩れの恐れや川に悪影響を及ぼさないか危惧している。</p>
委員	<p>溪谷や温泉の豊かさを活かした取組みが必要である。例えば、空港からはシャトルバスを運行するなど、市外から来た観光客が溪谷へ簡単に行ける方法が必要ではないか。また、キクロスの設備は素晴らしいが、周りに遊ぶ施設がないこと。既に、美味しいものはたくさんあるが、PRが足りていないこと等が今後の課題だと思う。</p>
委員	<p>やはり水が大事。これからは石油より水が重要な時代。菊池には水をテーマにした市になってほしいし、子供達には、水遊びできる場所を提供したい。「さすが菊池」と言われるような、水を使った公共的遊び場が必要ではないかと思う。全国でも菊陽、合志の住みやすさランキングは、上位であるようだが、やはり交通の便のおかげだと考えられる。観光で溪谷に行きたい人にとっては、タクシーしか手段がない状況である。今後は、交通の便を高める必要がある。</p>
委員	<p>本市を流れる3本の川を活かすように、自然をいかに活かしていくかを考えていく必要がある。</p>
事務局	<p>どんぐりプロジェクトなど良いものは継続していかないといけない。PRを続けていくことも大事だと思う。</p>

③グループ発表

【A グループ】

a.教育と地域づくり

委員	<p>「こうなったらいいな菊池市」という思いで話し合った。子育てについて出た案としては、働く世代が子育てしやすいまち（働く環境整備）、子育ても親育ても（親の学び直しの機会の充実）、フリースクールがあるまち（特色のある教育で人を呼び込む）など。健康福祉については、医療体制の充実（在宅診療、オンライン診療など）、障がいを持つ人も地域に受け入れるまち（現状グループホームの設置には地域住民へ事前の説明会を開催しなければならない）だれ一人取り残さない菊池市を実現するためにも、快適に安心して住みやすい、自慢したい菊池市であってほしい、など。世代間の交流がさかんで、豊かな</p>
----	--

	<p>伝統を受け継いでいくまちになってほしい。菊池市への U ターンは、雇用がない印象から帰って起業する人が多いという意見もあった。一度菊池市を出た人が戻ってきやすいまちでありたい。</p>
--	---

b.市民サービス

<p>委員</p>	<p>菊池市が発信するケーブルテレビがほしい（天草や玉名のケーブルテレビはこまめな取材と迅速な放送で、民放よりも視聴率がいいこともあるという）。私は、青空茶話会（公園で子育てに関する親同士の茶話会）を行っている。行政主導で市と市民の対話の機会が増えるとよい。菊池ファンドによる予算確保（菊池愛をもつ個人・企業からの寄付を募る）。だれでも簡単に市の情報にアクセスできる菊池市（現状は使い勝手が悪い。たとえば空き家情報が探しづらい、空き家情報の登録数が少ないなど）コンパクトシティ構想（移動が不自由な人は菊池市中心部に住んでもらい、空き家の増える中山間地の管理のために雇用が増える）、市内に大学を作るなど移住者増加の大きな目玉になるようなものが欲しい。</p>
-----------	--

【B グループ（委員）】

a.産業と経済

<p>委員</p>	<p>観光・農業・商工業、それぞれの連携などを議論した。産業について、後継者問題を解消できる仕組みの構築、農業への新規参入促進、他の都市との連携強化、生活と産業のデジタル化に若い世代の力を活かす、などの意見があった。観光振興については、農業体験の観光資源化で長期滞在を誘発するという意見や、竜門ダム・菊池一族の歴史・グルメなど、観光に活かせるものが多いので、うまく組み合わせ誘客につなげたいという話になった。また、誘致企業について、工業団地に多くの企業が誘致されているが、地元企業との連携がないことが指摘された。連携による新たなビジネスの創出が必要である。</p>
-----------	--

b.くらしの基盤

<p>委員</p>	<p>自助・公助・共助で防犯・防災につなげる。治安の良さをレベルアップさせていく。住環境の整備など、あらゆる計画策定の際は、外からの視点を議論に取り入れていくべきという意見があった。</p>
-----------	---

【C グループ（委員）】

a.教育と地域づく

委員	<p>基本的な教育に注力して、基礎学力の高い子どもを育成したり、トップアスリートが育つ環境も整備する。いずれは学校給食の食材をオーガニックにして食育に取り組む。Aグループの意見とも重複するが、家庭の教育力の低下が課題である（親が子どもにどう接したらいいのか悩んでいる）。里親の支援機関から講師を迎えて、親に学びの機会を設けるほうがいい。また将来的に里親家庭の増加につながり、それが人権意識を醸成する。現状、子ども食堂が一個人のボランティアに依存しており、持続が困難な状況である。地域で子どもたちを育てるために、リタイア世代など多くの市民が教育に携わるべきである。個々が提供できるスキルを行政が把握しマッチングしていく。里親家庭の子どもが大人になっても地域に残ってくれるよう、魅力的な雇用を創出する。</p>
----	---

b.自然環境

委員	<p>既にどんぐりプロジェクトなどの取組みなど、子どもが自然環境について学ぶ機会があるので、さらに活発化していくべきである。市内に多くある竹の活用（小中高生が竹あかりをつくるプロジェクト、子どもたちと竹炭の消臭剤を作るなど）。3本の川が流れているなど魅力的な自然環境をアピールして他の都市との交流を活性化させる（交流都市の増加）。自然環境を観光資源として、菊池渓谷以外の水のアクティビティの開発や KICROSS の活用などで、一日中菊池市で過ごしてもらえまことにしたい。菊池市発着で空港のシャトルバスができればなお良い。</p>
----	---

③総括

会長	<p>6つのテーマについて、具体的な「菊池市にこうあってほしい」というイメージが共有できたのではないかと。総合計画に記載される一般的な文章を、菊池市固有（特有）のものとして市民に理解してもらうには、市民が実感していることに当てはめて伝えていくべきだと思う。市民は地下水や農産物など地元のものに誇りを持ちながら日々の生活でも消費している。</p> <p>私はこれまで10年間菊池市に関わってきて、市民の成長を実感し、NPOやボランティア活動などが活発化してきていると感じた。これまでの取り組みをアップグレードしていく8年にしていきたい。誰一人取り残さないという眼差しが具体的な中身に反映されていくべ</p>
----	--

	<p>きだと感じた。</p> <p>今回出た言葉を整理し、実現できるものについては、総合計画だけでなく事業計画に取り込まれ、担当課の業務にまで落とし込まれることになると思う。</p>
事務局	<p>(3) その他</p> <p>次回の審議会では基本構想の素案を示し、意見を頂戴する。</p>
	<p>4 閉会</p>